

2 - 3 重点事業評価

事業名

県内の他の図書館等との連携協力の推進

(1) 事業の概要

● 対象

県内の市町村立図書館・公民館図書室・大学図書館・試験研究機関等

● 意図・目的

本県公共図書館の中核としての県立図書館に対して、「図書館の中の図書館」としての役割への期待も大きいことから、新潟県図書館協会や読書推進運動協議会など関連団体と連携しながら、県内の市町村立図書館等に対する業務協力を行ない、県民に対する幅広い読書推進活動を進める。

● 具体的取組の概要

①引き続き、県内の市町村立図書館・公民館図書室・大学図書館・試験研究機関等に対して、訪問相談や研修会の講師等の派遣を行う。

②図書館相互貸借の中でも、特にニーズの高い新潟市内の相互貸借（通称 めぐるくん、新潟市立図書館・新潟大学図書館参加）の周知を図る。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
新潟市内の相互貸借システム（通称 めぐるくん）を利用した冊数	年間2,000冊	1,837冊 (貸出1,562冊 借受275冊) (達成率92%)

(昨年度実績：貸出1,376冊 借受270冊 合計1,646冊)

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	C	目標の達成が不十分であった。
------	---	----------------

A 目標が十分に達成された。 B 目標がある程度達成された。
C 目標の達成が不十分である。 D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	市町村立図書館等に対する支援は、間接的に県民全体への図書館サービスになると認識している。中でも、新潟市内の図書館間の相互貸借はニーズが高い。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	目標の2,000冊には達しなかったが、昨年度実績1,646冊を約200冊上回った。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	カウンター窓口で、当館で所蔵していない場合、新潟市立図書館や新潟大学図書館蔵書の無料提供が可能であることを積極的に呼びかけた結果、相互貸借の認知度が少し高まったと認識している。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

引き続き、県内図書館の中核図書館として、市町村立図書館・大学図書館・試験研究機関等に対する協力業務を推進していく必要がある。特に、資料の相互貸借等、ネットワークの充実を図り、図書館資料の相互利用を促進していきたい。

(5) 図書館協議会意見

本事業については、ほとんどの委員がその重要性を指摘し、「重点目標としている割には、目標達成のための具体的な工夫が見られない」と批判する意見がある一方で、大多数の委員は、今後一層充実させるべく、事業展開の工夫や評価指標の改善を提言していた。

事業展開の工夫に対しては、次のような提言があった。

・ 図書の貸し借りを推進するだけでなく、図書を収集する際にも、蔵書が相互に補完的になるように、分担収集等の協力をしてはどうか。

・ 「めぐるくん」の認知度が低いと思われる。PRの仕方に工夫が必要である。

・ 教育現場の要望・需要を把握し、期待に添えていくよう支援・協力体制を組むことが必要である。

一方、評価指標の改善については、現在の指標が、県立図書館単独では改善が難しく、また、連携の中でも非常に限定された事業を対象にしていることから、別の指標にした方が良く、との意見が複数の委員から寄せられた。指標の例としては、訪問相談や研修会の講師派遣の回数が挙げられている。